

## 主体的・対話的で深い学びについて 本校の取り組みから

### 1 これまでの取り組み

- 「対話的」に焦点をあてて取り組んできた。
  - ・ペアや班の活用
  - ・感想を述べあったり意見を交流しあったりする場面で活用してきた。
  - ・ふり返りの場面での活用は有効であった。
  - ・全校集会や学年集会でもペアを使って意見を交流する場を設定してきた。これにより、全校集会や学年集会でも考えながら聞くということが、少しではあるが、できてきた。
  - ・子どもたちは、班やペアで話し合うことに慣れてきた、できるようになってきた。

### 2 次のステップはできているだろうか。

- ペアや班の形になって考えることはできているだろうか。
- 班で考えるのではなく、班の形になって個人で考えることはできているだろうか。
- 分からなければ、班の子に聞きながら、個人で考えるということができているだろうか。
- 例えば、先生から出された課題や問題、あるいは、教科書の練習問題など
  - 一人ひとりが考える。分からなければ班の子から自ら聞く。
  - = これは「主体的」な姿ではないだろうか。

#### 【別の観点から】

- 全員が一人残らず授業に取り組んでいるか。
- 手遊びしている子はいないか、伏せっている子はいないか、関係のないことをしゃべっている子はいないか。
- 取り組まない、取り組めないは、子どもが悪いのではない。取り組むべき学習課題、学習活動が子どもにあっていないと考える。 = 更なる教材研究が必要である。

#### 【更に別の観点から】 「主体的」に向けて

- 1時間の中で、全員が一人残らず、一人ひとりが、考える 場面の設定。
- 1時間の中で、全員が一人残らず、一人ひとりが、意見を言う 場面の設定。
- 1時間の中で、全員が一人残らず、一人ひとりが、書く 場面の設定。

### 3 更なるステップアップを ～深い学びのために～

- 教科の本質に迫る学習、学問の本質・ものごとの本質に迫る = 「深い学び」となるだろう。
- 例えば、国語の物語文の学習では、物語文の内容を教えるのではなく、物語文の読み方を教える。
- 教科書を教えるのではなく、教科書で教える。教科書の内容を学ぶではなく、教科書の内容で学ぶ。
- 教科の本質、学問の本質、ものごとの本質に迫る学習課題が必要である。
- 学習課題が解決できれば、本時目標が達成できたとなるような学習課題を設定する。
- ふり返りで学習課題について具体的に分かったと書けるような学習課題を設定する。
  - 深い教材研究が必要である。
- 学習課題を板書することで、めあての提示とする。